

## 校長講話

あけましておめでとう。

年の初めにみなさんと考えてみたいことがあります。

保育園にはお迎えの時間があります。送迎バスなどで送ってもらえる場合もありますが、小さな幼児たちですから、一人にしておくことはできません。けれど若いパパやママにも急な用事ができてしまって、時間通りにいけない場合があります。実際に、ある保育園ではお迎え時間に遅刻する親が多かったのを、それを減らそうと、遅刻した場合に罰金を支払う仕組みを設けることにしました。そうすると、一時的には遅刻はへりましたが、やがて遅刻の数は以前の倍になってしまいました。

なぜでしょうか。

それは利用者がお金をはらうことでまるで「保育延長サービス」を受けているかのような意識が生まれ、お迎え時間に遅刻して申し訳ないという良心の呵責をむしぼんでしまったからです。「お金を払えばいいんでしょ」といういったん植え付けられた利用者の態度は、保母さんたちには全く受け入れられないものでした。罰金制度を廃止しても、遅刻の数はもとにもどらず、さらには、もっと大切な保育園と利用者の関係性も毀損してしまいました。

さて、私たちは農業社会を後にし、産業社会と資本経済を建設することで多くのことを手に入れましたが、同時にたくさんのものを失いました。分業が進むとともに、大部分の人の仕事は、小さな領域の作業に限定され、すべて労働は金銭によって賄われるものとなりました。そのため労働そのものの喜びが顧みられなくなってしまったのです。

柳宗悦という明治から昭和にかけて活躍した思想家がいますが、この人は民衆の使う日用品に美しさと、職人の手仕事の価値を見出す民藝運動を始めました。彼は、大量生産される品物にけして心が満たされないのは、それはいやいや仕事をしている人が作ったものだからだ、と指摘しています。

昨年カンボジアに行った本校生のうちの一人が、貧しい農村に水道が引かれることは、それは確かに良いことだが、しかし、水道が引かれることで失われる良いものがあると言っていました。すばらしい観察だと思いますが、どんなものが失われるとみなさんは思いますか。

本当に価値あるもの、人のきずな、思いやり、人が無償で成し遂げようとするものなどの大切なものは移ろいやすく、例えば金銭などの他の価値に簡単にとってかわられてしまいます。いったん失うとそれを取り戻すことはもはやできません。私たちはこのことにもっと意識的であるべきではないでしょうか。

今年の干支は甲乙丙の乙に巳年の巳で「きのとみ」。努力を重ね、物事を安定させるという意味合いを持つ年だそうです。3年生のみなさんは体調に気をつけて、最善を尽くすことができるよう、1・2年生のみなさんも、今年が実り多き年になるようお祈りして、年頭の私のお話とします。